佐原の町並みかわら版

第６９号
令和４年２月
発行　ＮＰＯ法人小野川と佐原の町並みを考える会
佐原町並み保存会
お問い合わせ
佐原町並み交流館
電話　0478（52）1000

歴史から学ぶ保存地区の防災
義務づけられた消火訓練

明治時代の火災

明治二五年十二月、新橋本より出火した火事は、西風に煽られて小野川を超え本宿側まで飛火して総焼失は千二百戸余にもなった。

土蔵造の家が焼け残ったので、その後、土蔵が多く建てられるようになった。

重伝建地区指定に際して

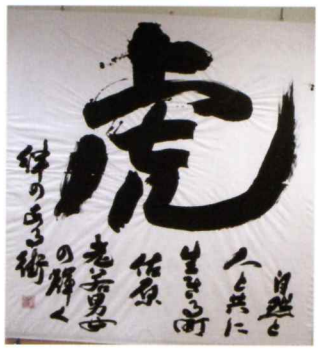
多くの市町村は遊休地を活用して防火水槽を建設していますが、佐原には適当な土地がありませんでした。簡易消火栓を設置することとなり、その設置場所の使用許可を各戸から頂かねばならないという問題がありました。市の付した条件は「無償提供、期間は未来永劫、各戸の間口付近を設置箇所とする」というものでしたので、交渉が難航したのは当然でした。

市行政主導で対策会議が何度も開かれて、結局、消火栓一基（ホース20ｍ×二本）の有効半径を40ｍとし、80ｍ置きに、延べ三四基の簡易消火栓が設置されることとなりました。

防火塗料や防火壁を使わず

また、保存地区の建物の外壁にはベンガラやその他の防火塗料や防火壁を使わないという条件も受け入れてもらって決着しました。

そして「考える会」には、毎年、消火訓練をするという責任が課されることとなりました。



「虎」本宮 華水氏 揮毫

消火訓練の様子 2021.10.9.(土)

1　初期消火、まず消火栓ドアを開ける

2　ホースを一杯に引き出す

3　栓を廻してもらって放水する

横宿の火災で感じたこと

平成三一年一月一四日に南横宿の老人宅より出火。昼間の出火なのに通報が遅れ、六棟に延焼しました。老齢のため隣の家まで通報が遅れたのです。この家に「火災警報機」が設置されていればと悔やまれました。

これからの防災対策

火災警報器が二〇一一年（平成二三年）に消防法によりその設置が義務づけられましたが、まだ普及率は低く、警報器の電池寿命も7～10年です。そこで、当会は警報器の普及率を高める活動にも取り組んでいます。

市町村圏事務組合消防本部より「住宅用火災報知器」広報用クリアファイルを預かっていますので「佐原町並み交流館（０４７８－５２－１０００）」へお越しください。

（理事長・佐藤健太良）

忠敬橋の拡張について

重伝建地区の中心に架かる忠敬橋は、電柱地中化の構想が進む中で補強とリニューアルの案が去る十二月二十一日（火）の理事会の席上で香取市側から説明された。

明治期に町民の浄財と協力よって架け替えられて、協橋（かなえばし）と命名された名残りを少しでも留めてもらいたいというのが私たち「考える会」の要望していたことでした。

試案は、橋の歩道の幅が上流側で約３.５ｍ、下流側で６ｍ程広くして交通が激しい時でも橋上から小野川の流れを安心して眺められ、今まで橋の前に露出していた何本かの管群も広がった歩道下に隠れるので景観には支障がなく、出席者からは歓迎する声が上りました。

忠敬橋上の歩道が広くなる（予想図）

今年度末には着工予定で、工事時間は夜間になると思われます。

☆地域おこし協力隊員を訪ねて☆

「さわらぼ」の高校生や市民と協力し 恵まれた資源を掘り起こして香取市に活気を

２００８年に麻生政権時に提唱され、２００９年度から総務省によって制度化された地域おこし協力隊は、過疎や高齢化の進む地域に人材を送り込み定住・定着によって、地域力の維持・強化をはかることを目的としています。２０１８年度には全国で５千人以上の隊員が活躍しています。香取市でも、この制度を受け入れて採用された岡田天太（てんた）さんが常駐する交流館内のオフィスを訪ねました。

岡田天太さん（交流館内のオフィスにて）

（広報班）はじめまして。まず、自己紹介をお願いします。

（岡田さん）北海道生まれで、明治大学の大学院生、24歳です。

（広報班）香取市と関わるようになったきっかけは。

（岡田さん）２０１８年の明治大学３年生の時に香取市へやってきました。私を指導してくれていた香取市出身の先生が推してくれました。２０２１年８月に地域おこし協力隊員として市に採用される３年前のことです。資源豊富な自分の故郷香取を学生に盛り上げてもらいたいという強い気持ちで推薦してくださったと思います。

（広報班）まず何から。

（岡田さん）香取市の農業を魅力的なものにしようと、畑をお借りしました。先生の知り合いの地元の方を紹介していただいたり、香取市役所の農政課のお世話で土地をお借り出来ました。ＮＩＰＰＯＮＩＡの方々には野菜販売でお世話になりました。

（広報班）毎日の勤務は。

（岡田さん）日、月、金曜日は交流館のオフィスに来ますが、香取市役所にも出かけます。大学の授業のある日は東京に行きます。

（広報班）今取り組んでいるのは。

（岡田さん）２０１９年より佐原高校生が中心の「さわらぼ」の活動を支援しています。地域の魅力を発掘し若者の地域への定着をはかるプログラムに関わっています。高校生はみな優秀で、この町が好きな生徒が多くて楽しみです。

また「考える会」のウエブサイトの発信を手伝ったり、伊能忠敬を観光の大きな資源として活用し、新たな観光客を呼び込む新事業につなげる取り組みもやっています。

地元で起業を

（広報班）香取市も若者に大きな期待をもっています。

（岡田さん）若いうちに生まれた町のすばらしさを知るということが大切です。小、中学生に町の魅力を伝える授業や若い人向けの起業家養成をやりたい。大学院では「地域の特色を生かしてビジネスを起こす」という「教育とビジネス」を組み合わせていくことを学んでいます。隠れた資源を自分で発見し拾い上げて起業する能力さえあれば、新しい仕事を生み出せるものです。

（広報班）高速道路や成田空港、鹿島工業地帯の良い後背地があるのでその条件は揃っています。

（岡田さん）探せば色々と良いところがあります。幅広い世代の人々が協力する接着剤の役目を果たしたいです。

（広報班）市民は優しい人々ばかりですし、外国の方々にも馴染みやすい土地柄です。

（岡田さん）外国だけでなく日本国内の外資系企業の人々にも声かけをしています。香取市に来て日本の良い所を見ていただきたいです。

（文責・新井勝治）

近隣市町村協力隊員の研修会 2022.2.1.(火)

佐藤理事長が佐原の町について解説

岡田さんの案内で重伝建地区を歩く

「考える会」の主な事業

令和三年
毎月第一日曜日・骨董市
毎月下旬・案内班会議
八月　五日　さわらぼ（建物借家交渉・多田氏）
六日　地域おこし協力隊打合
十日　地域おこし協力隊委嘱状交付　交流館
十日　地域おこし協力隊　岡田天太氏雇用
九月　一日　電線地中化説明会
六日　骨董市中止
八日　さわらぼ　交流館
二九日　地域おこし協力隊　移住フェア打ち合わせ
十月　八日　地域おこし協力隊打合
八日～十日　新宿祭礼中止
十日　簡易消火栓放水訓練
一四日　社会教育課委員会議
一七日　小野川清掃中止
二七日　理事会
十一月一二日～一三日　全町ゼミ・奈良大会（不参加）
一三日　本川岸、多田邸　さわらぼ借家打ち合わせ
一五日　香取市観光と祭り写真コンクール審査会
一八日　開かれた学校
二〇日～二一日　さわらぼ
二二日　香取市文化財保存活用地域計画協議会
一二月十日　電柱地中化打ち合わせ
二一日　理事会

令和四年
一月　二日　骨董市中止
一七日　佐原観光推進プロモーション推進協議会
三月　五日　佐原工芸体験学習　ミニチュアフード、エッグアート

佐原の文化遺産を次の百年へ引き継ぐ
旧川崎銀行佐原支店が昔日の雄姿で甦える

秋の文化財講演会

令和３年度第一回文化財講演会が昨年10月24日（日）に香取市佐原文化会館で開催され、旧川崎銀行佐原支店復原の成果が発表された。

篠塚正俊氏（香取市都市整備課建築・街なみ班々長）が利根川東遷で栄えた在方町（農村部に発達した商工業町）佐原が重伝建地区に選定されるまでを解説した。

また、小林裕幸氏（文化財建築物保存技術協会字事業部設計室長）の講演では、22年前から佐原の町並み保存に関わった経験からの「痕跡から復原し」「こだわって遺す」という厳しい眼で旧川崎銀行佐原支店の復原を行った経緯を説明した。

創建時の痕跡を探し出す

建設当時の材料を使用することを原則とする。ドームの焼け焦げた木骨部分は芯が残っているので残した。壁は表面をこすって元の色を探し出す。新しい煉瓦や木材を使った時は「令和」の年号を記す。暖炉を囲む大理石は、山口県秋吉台に行って、残っていた大理石板を入手した。煉瓦は国内産で、香川のサヌキレンガ製（サという刻印）と東京豊島区の山本煉瓦製は見当がついた。

復原完了の内覧会

1月27日（木）午前に行われた三菱館内の復元内覧会で、大正3年に建てられた旧川崎銀行佐原支店の内部が公開されました。壁から土台に至るまで古墳を掘り返すような細かい作業の積み重ねがあった。

螺旋階段を仰ぎ見る

銀行入口の土間のタイルは埋もれていた破片から復原された。欅のカウンターは7mの一本もので10年乾燥のものを、やっと静岡県天竜市の材木商から入手できた。

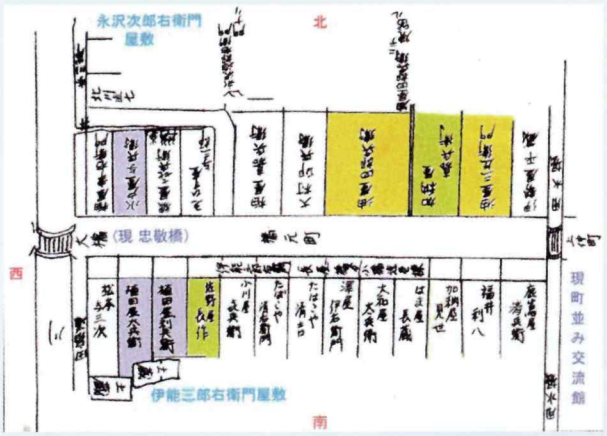
復原に要した苦労の数々は枚挙にいとまがないほどであった！

完璧に磨かれた欅の一枚板のカウンター

１９世紀中頃の本橋元町

国立歴史民俗博物館蔵の伊能茂左衛門家資料に本橋元町の天保６年（１８３５）４月１７日の火災時の記録絵図が載っている。

北側は、伊能家と並び称された永沢家の屋敷で街路から北に向かって通路があり本宅の門に至る。通路の東西には３棟の長屋があり、これを貸家としていた。その内、東側から２軒目の**油屋三左衛門**とは、和学者**伊能穎則**（ひでのり。明治新政府の神祇官として令義解を明治天皇に進講した）の店で、酒造から絞油業へ移行した油屋四郎兵衛の分家である。３軒目の**加納屋嘉兵衛**は、成田在の飯岡村の出で、近来まで薬種商を営んでいた。西端から２軒目の**水戸屋与兵衛**は、今も同じ場所で茶商を営業する。



南側は、図中に「伊能三郎右衛門長屋大橋より小橋まで一棟」とある通り、伊能忠敬を出した伊能家の長屋で、現在の忠敬橋から上仲町の境界まで連なる約７０ｍの長大な１３軒の棟割長屋で、長屋の左端の**佐野屋**は、後に南西の河岸通りへ移転。同じく**植田屋**２棟は、川沿いまで拡張して今に続く。植田屋は近江商人で、銚子に出店を持ち、さらにそこから佐原へ進出してきた。また佐野屋は宇都宮の佐野屋の出店として出発しており、いずれも遠隔地からの入り込み商人で、伊能家の店借商人から成長していった。　（酒井右二）

㊟古代日本の法律である大宝律令も養老律令も現存しないが、９世紀半ばに惟宗直本（これむねのなおもと）という律令学者が編した令集解（りょうのしゅうげ）とか令義解（りょうのぎげ）とかいわれる養老律令の注釈書の中に引用された多くの原文から、大宝律令の全貌も類推できる。

町並み交流館の展示等

令和三年
八月二日～三一日、九月一日～一二日　研修室午後五時以降貸出中止
九月一一日～二六日　樋の道　切り絵サークル作品展
一三日～三〇日　研修室午後五時以降貸し出し中止延長
二七日～十月六日　魚谷幸子水彩画展
十月　一日　研修室、午後九時以降貸し出し中止
七日～一七日　篠塚喜一写真展
二一日～二八日　鈴木達也人形展
十一月一日～六日　北総四都市江戸紀行展示
七日～二一日　野口正博切り絵展
江戸優り佐原文化芸術祭
一九日　三菱館ライトアップ再開
一二月七日～二一日　香取市観光と祭り写真コンクール展示
一一日　席上揮毫　本宮華水　忠敬のこと
二一日～一月二三日　正月飾り　本宮華水
一月　一日　休館
八日　獅子舞（忠敬茶屋前）
二一日　新型コロナのまん延防止等重点措置の指定　～二月一三日
二月　五日～三月二七日　雛めぐり

～コロナ禍の重伝建地区を歩く～
街並みの景観が少しづつ変化していく

新型コロナウイルスのデルタ株感染が、昨年十二月に入る頃から急に下降線となり、千葉県も感染者がゼロになるのではと思わせるほどに減少しました。すでに欧米ではオミクロン株が増えてきていましたが、日本では外国からの来日者受け入れを緩和していました。次の第六波の感染拡大が予想される中で、一月の三が日を過ぎると感染者が急増して、二月上旬には、全国で一日十万人、東京都は一日二万人を超えました。

同じく千葉県も二月上旬には一日五千人超、香取市も延べ感染者数が八七四名、一日の新規感染者数は三二名にも上り、五十名超の日もありました。ステルスオミクロンと称される新型が欧州で頭を持ち上げ始めている状況の中、小野川沿いを歩いて何枚か写真を撮りました。

川の上流にはクラフトビール醸造所が建設中で、忠敬記念館前にはポケモンのマンホール蓋が置かれ、観光案内所の二階には「花冠」の喫茶店が開店していました。

クラフトビア醸造所建設中

ポケモンマンホール蓋

観光案内所2階に花冠開店

小学生向けの町並みガイドで留意したい「あれこれ」

小学四年生の学習は「**佐原は**（自分たちの住んでいる町とは違う）**特色のある町→**どんな町なのか？実際に見たり、説明を聞いたりして理解を深める」ことです。

①学習上必要と思われる内容を吟味し厳選したい。

知識の伝達→習得だけでなく見たり聞いたりして、児童自らが感じたり考えたりすることも学びとなります。

②難解な語句は、分かりやすく言い換える。年号は「今から○○年前」とか、商店名は省いたり、難しい言葉はわかりやすい表現にする。

例：「重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）」は「古い建物をとりこわさずに町並みを大切に残していく場所」とか「国宝」は「国の大切な宝物」等。

③「投げかけだけの質問」や「答えを求める応答質問」等で学びへの導きや集中を促す。解説（説明）は最小限に留めて、「見てごらん」「どうかな？」「どう思う？」「何か気づいた？」「なぜかな？」等の『問いかけ』を重視する。

④どんな答え、どんな反応も「許容」する。共感的に柔軟に受け止める。「そうだね」「すばらしいね」「すごいなあ、よく知っているね」「いい質問だね」「ぜひ調べてみるといいね」。

ガイドが終わって「みなさんの学習のお役に立てたでしょうか？」と尋ねると、すかさず「すご～く役立った」と大きな声が返ってくる。

「それはよかった！うれしいな！」

平澤　節夫（案内班・写真）

伊能測量最大の危機?!

「糸魚川事件」の背景を探る（中）

測量への理解不足と経費節減か

「糸魚川事件」を伝えるのは伊能忠敬の「測量日記」と地元の糸魚川町庄屋の記録「糸魚川文書」がある。

●測量隊側の資料「測量日記」

①訓戒書（高橋至時から測量中の忠敬宛の文書。六〇〇余字）

②内書（高橋至時から測量中の忠敬宛の文書。千数百字）

③弁明書（測量途中で作成して送付した忠敬の返書。千数十字）

④書簡（高橋至時から板橋を測量中の忠敬宛の文書で③の返書。「委細分かり、安心した」の記載あり。十月六日付で十月七日受取）

⑤弁明書（忠敬による顛末の書付で、「糸魚川一件巨細書」である。測量中に作成し、江戸帰着後に提出された。二千四百余字）

●地元の資料「糸魚川文書」（上越市渡辺慶一家文書。八月七日から事件解決の八月十二日までの日記体の記録）

A・止宿の変更の件の記述はない。

B・姫川河口測量の件で、海際の通行は危険だからと中止を求めたとの記述あり。

C・役人等の測量協力の件で、出迎え、見送りともに町年寄一人、庄屋一人でということで対応した。当領内の方針は、他所のことは別、当領では手軽く取り計らうべし、との記述あり。

糸魚川藩陣屋の役人は、御公儀御用とはいえ、何のための測量か分からず、幕臣でもない忠敬の測量隊を好ましく思わなかった。迎える指示は一通り与えてはいるが、現場の役人たちは「軽く取り計らう」という陣屋の方針で「手間のかからぬ方向で」（渡船用意の費用節約か）と対応した。

町役人たちは測量隊と陣屋との間で板挟みになり苦慮したに違いないが、正しくない報告を江戸の領主に送ったと推察される奉行や代官は責められてもしかたない。

国土の輪郭を明らかにしようとする伊能忠敬による沿海測量の重要さを認識できなかった陣屋の役人は、無事に、しかも出来るだけ経費を少なく済ませたいと願ったのであろう。

陣屋の役人からは江戸の領主へ次の様な報告が行われた。「忠敬一行が測量先で幕府の権威を笠に着て威張り、賄賂などを取る」「江戸で申し立てるというひと言にもってのほかとあきれ果てる」と。

糸魚川領主は「いわれた通りに応対しており文句をいわれる筋はない」と幕府（勘定奉行）へ訴えた。

現地で解決した問題が中央で重大化したのである。

（平澤節夫）